

## 一般口演21

## 上部構造の設計、製作、技工

11月3日 (日) 14:00 ~ 14:40 第5会場 (本館地下1階 Room E)

横山 敦郎 (北海道大学大学院歯学研究院口腔機能補綴学教室)

## O-2-5-39

## ジルコニアテレスコープクラウンにおける義歯安定剤の応用

## —各種義歯安定剤併用時の維持力測定—

○西山 晃司, 寺内 良平, 鯨岡 創一郎, 新井 真澄, 田 昌守, 柳 時悦, 奥寺 元  
東京形成歯科研究会

Application crown of denture stabilizer in patient removable zirconia telescopic crown

-Various determination of Maintaining power -

○NISHIYAMA K, TERAUCHI R, KUJIRAOKA S, ARAI M, DEN M, RYU J, OKUDERA H  
Tokyo Plastic Dental Society

I 目的: 私共はインプラント上部構造を患者自身で着脱できるテレスコープクラウンの意義と性能を確認し有用性があることを報告してきた。金属価格の高騰から材料をジルコニアに限定し発表してきたが、使用3~4年の経年劣化で粘着性の強い食品をかむと外れやすいことから、テレスコープクラウンの宿命的ゆるみ現象を対処する必要性がある。その対処法として義歯安定剤の応用を試みた。テレスコープクラウンの維持力測定はマイクロモーターを用いた自家製の引き上げ装置による維持力試験を実施した。各種義歯安定剤を内冠と外冠間に介在させて測定したところ、維持力が大きく咀嚼が安定した義歯安定剤を見いだしたので報告する。

II 症例の概要: 上部構造は、軸面テーパ0度の内冠と、セメントスペースを0.00mm/0.0 $\mu$ mと設定したLUXENジルコニアカラーリングキッドで製作した外冠からなり、3年以上の経年劣化からゆるみを生じたものを使用した。

使用した義歯安定剤は新ファーストン (MYER社)、Clo2 Fresh gel (バインメデカル社)、新ポリグリップ (コンシューマ・ヘルスケア・ジャパン社)の3種類とした。Clo2 Fresh gelを除いて同量のお湯に溶かして内部に均等に塗布した。被験者は1名で、3種類の義歯安定剤について各6回ずつ維持力を測定した。統計解析にはt検定を用いた。維持力の平均値は、新ファーストンで394g、Clo2 Fresh gelで487g、新ポリグリップで676gであり、新ファーストンと新ポリグリップ間、Clo2 Fresh gelと新ポリグリップ間で有意差がみられた。

III 考察および結論: 口腔内使用においても新ポリグリップは脱離がなく咀嚼できた。また容易に着脱と清掃が可能だった。このことから維持力の数値とともに新ポリグリップはテレスコープクラウンの宿命的ゆるみ現象の対処法として有効であると考えられた。スクリューやセメントに頼らない方法としてジルコニアテレスコープクラウンが経年的にも応用できる。

(研究は被験者のインフォームドコンセントを得て実施した。また、発表についても被験者の同意を得た。倫理審査委員会番号17000114承認 承認番号22201号)